

大空 (生徒・保護者向け) 63号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和4年3月16日(水)

幸福な王子とツバメ(附属中学校卒業式式辞)

□本日の概要

- 悲しい物語のように思える「幸福な王子」だが、王子は他者の痛みが分かる感受性を持っているという点で幸福である。
- ツバメも王子同様、他者の痛みが分かる優しい心を持っている。自分が少し損をしたとしても他者の幸福を願う生き方もある。
- 王子は、自分を真剣に愛し、支えてくれたツバメという存在がおり、真実の愛を自覚したという点でも幸せである。自分が命を懸けて愛する存在と出会えたことも幸せである。
- 皆さんの周りにも、皆さんを支えている何羽ものツバメがいる。皆さんを支えているツバメが見える人であってほしい。
- 本日のNFC 感性 自他肯定力 想像力 道徳心

□幸せな生き方とは

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様におかれましても、これから高校生活が控えているとはいえ、お子様の中学校卒業を迎え、一安心されたのではないのでしょうか。子ども達が今日の日を迎えられましたのも、ひとえに保護者の皆様のご理解やご支援の賜であり、この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、卒業生の皆さん、ご存じのように、これから皆さんを待ち受ける未来は、今まで私たちが経験してきた時代と全く違うと言っても過言ではありません。世界的な人口増加と、それに逆行する日本の人口の減少。環境問題と経済発展の矛盾。加速する少子高齢化、グローバル化、進化する人口知能など、10年後の未来さえ予測できないほど、私たちの周囲は変化しています。さらに、皆さんは、平均寿命100歳の時代を迎えようとしています。皆さんには、100年に渡る人生を生き抜き、幸せになってもらいたいと、私は、切実に思っています。それでは、幸せな生き方とは何でしょうか。

□幸福な王子

「幸福な王子」という童話があります。皆さんも、どこかで読んだことがあると思います。イギリスの詩人、オズカー・ワイルドが1888年に発表した作品ですが、この童話を通じて、幸福について考えてみたいと思います。こんなお話です。

町のひろばの中央に、少年の銅像が立っていました。目

には青いサファイア、剣の柄には大きな赤いルビーがうめこまれていました。

だれもが、その美しく、りりしいすがたをたたえ、その銅像は「幸福な王子」とよばれるようになりました。

王子の像は町のほこりでした。市長や議員は、王子の像を自慢しました。

秋もちかづいたあるばん、一羽のツバメが飛んできました。仲間にすっかり遅れたツバメは、南の国に渡る途中、一夜の宿を、この王子の像の下に求めたのです。つばめが休んでいると、空から水滴が落ちてきました。幸福の王子が涙を流していることに気づいたツバメは、その涙を尋ねます。

王子は、人間として生きていた頃、とても幸福でした。お城の中で暮らしていた頃、王子は悲しみを知りませんでした。

ところが、像になって町の高い所に立つと、町につらく、苦しい暮らしをおくっている人が大勢いることが分かります。王子は、世の中に不幸というものがあることを初めて知ったのでした。

王子は、ツバメに、路地裏に住む、子どもが病気のかわいそうな親子のことを話します。動けない王子は、ツバメに、自分の像の剣のルビーを引き抜いて、親子の所に届けるように頼みます。南の国に旅立たなければならぬツバメは断ります。しかし、王子は何度も頼みます。ツバメはしぶしぶルビーを運びます。そして、ツバメは自分の翼で、熱に苦しむ子どもをあおいでやります。子どもは「ああ涼しい」と穏やかな眠りにつきました。届け終わると、寒い夜なのに、ツバメの心は温かくなるのでした。

次の日、王子は、ツバメに、若く貧しい物書きに、自分の目であるサファイアを持っていくように頼みます。ツバメは断りますが、王子は聞きません。

その次の日、王子は、ツバメに、今度は貧しいマッチ売りの女の子のところに、もう一つの目を届けるよう頼むのです。「そんなことをしたら、あなたは目が見えなくなってしまう」とツバメは断りますが、王子は聞きません。

「これで目が見えなくなってしまうね。王子様、これからはずっとあなたのおそばにいます。」ツバメは王子の目となり、自分の見た町の様子を王子に話します。

王子は、ツバメに、自分の体を覆う金箔をはずし、町の貧しい人々に届けることを頼みます。王子の体は、地肌が剥き出しになった灰色一色のみすぼらしい姿になってしまいます。

すっかり冬になり、雪が降ってきました。ツバメが王子

に別れを告げにきました。王子はツバメがやっと南の国に行く気持ちになったと思ったのです。「さよなら、王子様、私は死の国に旅立ちます。」ツバメは王子の唇にキスをする、王子の足下に落ちて死にました。その瞬間、何か壊れたような大きな音がして、王子の鉛の心臓が二つに張り裂けました。王子もまた、ツバメの後を追うように息絶えたのです。

王子の像は溶かされますが、二つに割れた心臓だけではどうしても溶けず、ツバメの死骸と一緒にゴミ捨て場に捨てられました。

その夜、神が天使に、「あの町からもっとも貴いものを二つ持ってきなさい」と命じました。天使たちは、王子の心臓と死んだツバメを持ち帰りました。

神は、天使に「お前たちの選択は正しかった」と言いました。そして、ツバメと王子は天国で永遠に幸せに暮らしました。

□王子はなぜ幸福なのか

私は幼い時にこの話を読み、単にかわいそうな話としか思えませんでした。いったいどこが幸福なのでしょう。結末に神の救いがあるものの、王子もツバメも死んでしまいます。特に、王子の頼みを断ることができなかつたために、いわば巻き添えになって死んでしまうツバメは不幸だと思いました。でも、大人になった今、王子も、ツバメも、幸福なのだと思うようになりました。

王子はなぜ「幸福」なのでしょう。まず、私は、王子が「不幸」を知り、その不幸に涙する心を持っていたことが幸福だと思います。王子の中に、他者に共感する心、すなわちEmpathyがあるからこそ涙を流すことができるのです。もっとも、人の痛みが分かる感受性があるということは、実は辛いことです。鈍感な人は、自分のことだけを考えて楽しく過ごせるかもしれません。人の痛みが分かる優しい心を持つ人は、自分の優しい心に責められ、苦しむでしょう。しかし、他者の痛みが分かる感受性を持っているということは、宝石以上に貴いものだと私は思います。

ツバメも王子同様優しい心の持ち主です。南国に行く途中のツバメにとって、王子の頼みは迷惑です。王子は動けません。ツバメは飛んで行くことができます。ツバメは、王子を見捨てて、さっさと南国に行けば良かったのです。しかし、ツバメは、悲しむ王子を見捨てることができず、ツバメも、王子の悲しみが分かる優しい心の持ち主です。

王子とツバメは似ています。二人は、どちらかといえば損をする人たちです。世の中には、他者が苦しんでいても無頓着の人がいます。また、合理的という言葉の下に、平然と弱者を切り捨てる人もいます。逆に、他者の苦しみが分かる人は、いつも損をします。私は皆さんに、ツバメのように自己犠牲的な生き方をしなさいと言いたいわけではありません。でも、自分の利益だけを考えるのではなく、自分がちょっと損をしてもいい。そのことで、誰かがちょっと幸せになるような、他者の幸福を願う生き方もあることを知って欲しいのです。

次に、王子が幸せだと思う点は、ツバメという自分を愛してくれる存在と出会い、また王子も、自分がツバメを深く愛していることを自覚できたことです。王子は、お城で暮らしていた頃も大勢の人に愛されたことでしょう。でも、それは、王子が富と権力を持っていたからかもしれません。お城では楽しく暮らしていますが、本当の愛は知らなかったでしょう。自分を真剣に愛してくれたツバメに出会ったことは、王子にとって何よりも幸福です。

王子は、自分がツバメを引き留めることが、ツバメを死に追いやることには気づいていません。ツバメが命懸けで自分を愛していたことを知った王子は、自分も深くツバメを愛していたことを悟ったのだと思います。だからこそ、ツバメが死んだとき、鉛でできている王子の心臓が張り裂けたのでしょう。

みすぼらしくなった王子は取り壊され溶かされますが、王子の心臓だけは溶かすことができなかったのは、王子が真実の愛に出会ったこと、愛が不滅であることを示しています。自分が命を懸けることができるような存在に出会うこと、そしてその存在のために全力を尽くすこと。それは死より貴い。そのような大切なことを知ることができたという点で、王子も、そしてツバメも、幸福なのだと私は思います。

皆さんは、幸福な王子と同じような立場にいます。中学校までの皆さんは、社会の厳しさや悲しみを、直接に知らずに過ごしているという点で、いわばお城で暮らしていた頃の王子と似ています。もちろん、今までも、辛いことや悲しいこともあったでしょうが、実は、学校や家庭という温かな存在に守られて生きてきたのです。これから、皆さんはしだいに厳しい世界に直面することになりますが、これは不幸ではなく、試練です。試練が人間の力を高めます。試練に負けず、まっすぐに生きて下さい。

□自分を支えているツバメが見える人に

また、皆さんは、お城にいた時の王子同様、自分の周りに、自分を支えている何羽ものツバメが飛んでいることに気づいていません。その中でも、皆さんのために、命をかけて飛び回っているツバメがいます。それは外でもない、皆さんの保護者です。皆さんは、皆さんを支えている無数のツバメが見える人でいて下さい。人間として大切なのは、感謝の心です。今日は、皆さんの保護者に、「今まで本当にありがとう」と感謝の言葉を述べて欲しいと思います。

中学校の先生も、皆さん方を支えたツバメです。幸い、本校は中高一貫校です。高校生になっても、今までと同じように皆さんに接することができます。先生方へ感謝の言葉を伝えるとともに、これからも話に来てください。王子が、ツバメから異国の様々な話を聞くのが楽しみだったように、私たちは、多くの経験や出会いを重ね、逞しく成長した皆さんの話を聞くのを楽しみにしています。そして、皆さんが、これからも未知の我を求めて、未来に向かって羽ばたき続けることを祈念して、式辞といたします。

○参考

幸福な王子—ワイルド童話全集（1968 新潮文庫）幸福の王子（絵本 2010ブロンズ新社）